



こやのいつなり
小谷野 五成

学校給食における食育の機会と
地元農家の販路の確保を！

学校給食における地元食材の活用は

答弁 地元食材の積極的な活用に努めてまいりたい

動画で一般質問を
ご覧いただけます



問 学校給食に地元食材活用を促進することで、子どもたちの食育の機会、地元農家の販路の確保ができると考えるが、見解は。

答 市内の農家等が直接指定事業者に登録されている例は今までないが、納品等のリスクが少なく、独自で販売する力を持つ農業者については、登録も可能である。今後、常時ホームページにて周知していく。

学童保育について

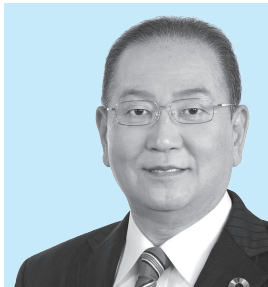
問 こども家庭庁が「夏季休業期間中における放課後児童クラブの開所支援」を拡充したが、夏休みに限定した児童の受け入れの考えは。

答 期間限定であっても、設備及び運営に関する基準に則した場所の選定や、支援員の配置への課題がある。今後、研究をしていきたい。

災害対策について

問 災害時の情報伝達の現状は。

答 防災行政無線の放送に連動してホームページに放送内容が掲載されるほか、ひだか防災メールや市公式LINEを通じて、瞬時に情報が伝達される。また、広報車による対象地域への伝達、多様なメディアを通じて、地域住民に対して情報を伝達する「Lアラート」も活用している。



やまだ かずしげ
山田 一繁

市民ニーズに応え、市長公約の
新しい交通手段が早期実現！

おでかけタクシー現在の状況は

答弁 5月末での利用登録者数は5,420人

動画で一般質問を
ご覧いただけます



問 市長公約である「おでかけタクシー」は、わずか1年で実現。他市の例は複数年要している。開始から2か月経過した利用者からの声は。

答 半額で助かる、買い物に使える、ドアツードアはありがたい、16歳以上から登録できるので嬉しい等、喜びの声がある。広く多くの方に好評。

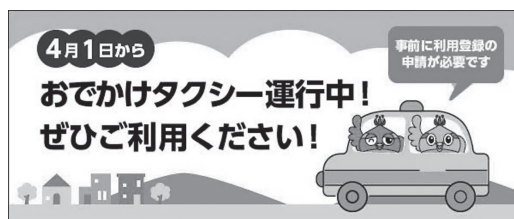
問 市民の移動ニーズに合わせた柔軟な対応は重要なこと。現在の課題とその対応は。

答 当初の乗降ポイントには行きたい場所が含まれていないケースがあり、追加の要望を受け、老人ホームや墓地、接骨院等の乗降ポイントを42か所追加。現在338か所となり、引き続き必要

に応じて随時追加をしていく。

問 導入前、市内タクシーだけで足りるのか、といった懸念も一部あったが、想定と比べて対応できているのか。

答 当初の想定は先進自治体の例から試算し、利用回数を一日当たり最大で150回程度と想定しているので、充分対応できていると考えている。



誰もが安心して暮らせるまちづくりのために